

第41回日本病院薬剤師会近畿学術大会

スポンサードセミナー1

# 地域フォーミュラリ 実施の意義と方法論

座長

**奥田 真弘 先生**

大阪大学医学部附属病院  
教授兼薬剤部長

演者

**今井 博久 先生**

東京大学大学院 医学系研究科  
地域医薬システム学講座 教授

日時

2020年**2月16日**(日)  
9:00~10:00

会場

**第5会場**  
**神戸国際展示場 2号館2F 2A会議室**  
〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目11-1

共催：第41回日本病院薬剤師会近畿学術大会／日医工株式会社

## スポンサードセミナー1

# 地域フォーミュラリ実施の意義と方法論

東京大学大学院 医学系研究科  
地域医薬システム学講座 教授

今井 博久 先生

わが国の地域フォーミュラリは「一定の地域における医師および薬剤師、その他医療関係者が協働作業を通じて共通の理解と納得を前提に、地域の患者に対して有効性、安全性、経済性などの観点から使用するのが最適であると推奨された医薬品集および使用指針」と言えるだろう。欧米に目を向けると、米国の営利保険会社傘下の病院や診療所における「院内フォーミュラリ」、英国のNHS下でフリーアクセスができない制度の中で、かつNICEが診療報酬支払で権限を持つ医療環境における「ローカル・フォーミュラリ」がある。しかしながら、こうした海外の例は参考にはなるが、わが国との医療制度が違い過ぎるため、応用して使用することはできない。わが国独自の方法論の開発が必要だろう。中医協の総会では「フォーミュラリ」の作成について診療報酬支払の可否が議論されたが、残念ながら「地域フォーミュラリ」なのか「院内フォーミュラリ」なのかの定義もないまま意見が出され噛み合わない議論により紛糾した。また大手調剤チェーンが実績もなく方法論を明示せずに地域フォーミュラリの受託事業を派手に宣伝したことも日本医師会が嫌った。(現在、大手調剤チェーンは地域フォーミュラリのPRを中止し、かわって院内フォーミュラリの請負事業を宣伝し、一貫性の無さが強く批判されている)。本来ならば「地域フォーミュラリの薬剤の処方加算」の是非について、地域医療の効率的な薬物治療の推進（原則、薬剤は後発品）、患者アウトカムの向上、医師と薬剤師の連携などの観点から議論すべきだろう。わが国の医療風土になじむ「地域フォーミュラリ」は医師(会)、薬剤師(会)などの委員からなる「地域フォーミュラリ作成運営委員会」でエビデンスを活用し、地域シェアなども勘案して作成されるプロセスが最も望ましい。作成には高度な技術は必要としないため大手調剤チェーンの手を借りる必要はない。利益追求の会社が作成した「借り物」ではなく、地元の医師(会)、薬剤師(会)によって作成され運営される地域フォーミュラリが使用しやすいだろう。当然ながら地元の病院薬剤師の役割は非常に大きい。市郡薬剤師会の薬剤師と連携し、エビデンス構築、現状シェア分析、製薬会社選定などの仕事を協働的に遂行し、地域フォーミュラリ実施に向けてリーダーシップを発揮すべきだろう。本講演では地域フォーミュラリの意義、実施方法、今後の方向性などを話したい。